

「チーム論述書」

チーム番号 (3)

研究テーマ名 自分探しを実現するサービス「ここたび」について

自分探しを実現するサービス「ここたび」について

1. 背景・目的

高知県では人口減少や地域活力の低下が課題となっており、県民一人ひとりが生き生きと生活する環境の構築が求められる。私たちは、県民が「やりたいこと」を発見し、それを実現できる仕組みを作ることで、個々の幸福感を高め、地域全体を活性化させることを目指した。特に、幸福感を構成する要素として心理学者マーティン・セリグマンが提唱した PERMA の法則（ポジティブな感情、没頭、人間関係、意味、達成感）に着目し、これを軸とした支援策を検討した。

2. 検討内容と考察

インタビューや文献調査を通じて、県民の現状を把握した結果、以下の課題が明らかになった。

1. 探索者（やりたいことを探している人）が情報不足や行動への心理的ハードルを抱えている。
2. 実現希望者（やりたいことを見つけたが行動できない人）が仲間や支援を得られていない。
3. 実現者（活動を行っている人）が活動を広げるための手段や参加者の不足を感じている。

これらの課題を踏まえ、特に「探索者」に焦点を当てることで、やりたいことの発見から行動までの支援を行い、他の対象者への波及効果も期待できると考えた。

3. 施策の検討とプロトタイプ

3.1 施策の概要

施策の中心として、自己理解から行動までを一貫して支援するポータルサイトを開発した。自己分析機能で興味や強みを把握し、イベント紹介・検索機能で地域活動の情報を提供する。また、仲間募集・交流機能によりつながりを促進し、実績の可視化機能で行動や成果を確認できる仕組みを整えた。地域の祭りやオフラインイベントとも連携し、探索者が心理的・時間的なハードルを感じずに参加しやすい環境を構築した。

3.2 オフライン施策の連携

オンライン施策に加えて、地域の祭りや趣味の教室、専門家紹介イベントなど、オフライン活動の場も提供する。これにより、探索者が心理的・時間的ハードルを感じることなく気軽に参加できる環境を整える。

4. プロトタイプ検証

4.1 プロトタイプの構築

本研究では、探索者を主な対象としたポータルサイトのプロトタイプを試作し、その有効性を検証した。プロトタイプには、自己分析機能、イベント検索機能、交流機能などの主要な支援ツールを搭載し、探索者が「やりたいこと」を発見し、行動に移すプロセスをサポートできる設計を実現した。

4.2 プロトタイプの検証

探索者、実現者の方々を対象にインタビューの形式でプロトタイプの検証を行った。プロトタイプ検証では、利用者から「活動やイベントの情報が得られる点」「やりたいことが決まっていな人が探すきっかけになる点」「対象層が明確で若者を呼び込める可能性」などが評価される結果となった。一方で、カテゴリー別の宣伝方法、スクリーニング機能の追加、「誰と」を重視した情報提供の強化などが改善点として挙げられた。

5. まとめ

本研究では、高知県民の「やりたいこと」の発見・実現を支援するため、ポータルサイト構築とオフライン施策の連携を検討した。プロトタイプ検証で一定の成果を確認した一方、改善点も明らかとなった。今後は、利用者のフィードバックを基にサイトの完成度を高めるとともに、地域活動との連携を強化することで、より効果的な支援を実現していきたい。これにより、県民のウェルビーイングを持続的に向上させる仕組みを目指す。